

## 〔考 察〕

- ① 29項目中27項目が、肯定的回答率が80%以上（判定がAかB）である。また、7項目については、肯定的回答率が100%である。このことから、学校経営や教育活動に対して、多くの先生が肯定的に捉え活動している。
- ② 昨年度と比べ、判定がB→Aとなった項目は2項目ある。

1つは、「V-14生徒が充実した生徒会活動を行えるような指導に努めている。」であり、今年度は、文化ホールでリハーサルを行ったり、保護者の協力のもと強歩大会の距離を長くし開催したりと行事の充実を図るとともに、日常の活動として、縦割り活動（学習会の実施、異学年との清掃活動など）を行った。その中で先生たちも協力して活動を行ったことが要因として考えられる。

もう1つは、「VII-18諸活動の対応に外部の方と連携をとるなど開かれた学校づくりがなされている」であり、さまざまな支援が必要な生徒に対して、学校の中だけでなく、市教委や市及び県の行政機関（子ども家庭センターや児童相談所など）との連携を図るとともに、医療と連携していくケース会議などを必要に応じて実施してきたことが要因として考えられる。
- ③ 「I 教育目標」について、すべての先生が、校長の示した経営方針のもと、目標に向かって教育活動を実践していることがわかる。
- ④ 「II 校務分掌」について、昨年度と比べ、肯定的な意見が増えたが、職員一人ひとりにかかる仕事量には、まだ差があると感じている教員もいる。
- ⑤ 「III 学習指導・進路指導」について、昨年度と同様に、肯定的な意見が大半を占めている。今年の校内研究で行った「問いの設定」・「学び合い」・「家庭学習」の成果が徐々に始めていることがわかる。
- ⑥ 「IV 生徒指導・道徳指導」について、昨年度と同様に、肯定的な意見が大半を占めている。特に、「10諸問題に組織的かつ迅速に対応している」については、昨年度よりもAの回答率が増えており、学年集団だけでなく、生徒指導を中心に学校全体で対応していることが要因として考えられる。
- ⑦ 「V 特別活動」について、昨年度と同様に、肯定的な意見が大半を占めている。また、昨年度と比べて、いずれの項目もAの回答率が増えており、それぞれの活動において、生徒の成長を考え、それぞれの役割や責任を果しながら特別活動を行っている様子がわかる。
- ⑧ 「VI 職員会議・校内研」について、昨年度と同様に、肯定的な意見が大半を占めている。ただし、校内研究に対して、忙しさの中で主体的に参加できないと感じている教員がいる。
- ⑨ 「VII 家庭・地域との連携」について、3項目ともにA判定であった。これは、学校が保護者や地域に対して、相談に誠実に対応し、情報を発信し、連携を深めようとしている様子を示している。
- ⑩ 「VIII 小中連携」について、昨年度と同様に、肯定的な意見が大半を占めている。連携を始めて数年がたち、徐々に小学校との連携のやり方も深まってきた。ただし、生徒指導等の情報交換の方法や連携の方法など、まだまだ改善していく必要があると考えている教員もいる。

- ⑪ 「IX 職場環境」について、昨年度と比べ、肯定的な意見が大半を占めている。このことは、教員一人ひとりが、年間を通してより良い集団をつくっていかこうとする意識を醸成していると考えられる。

### 〔来年度に向けて〕

- ・校務分掌について、教職員の意見を取り入れながら、1つの分掌を複数人で分担するなど、より一層、業務の改善を図っていきたい。
- ・授業で「発展的な内容」などを取り入れた個に応じた指導の在り方について、教職員の学習を深めていきたい。
- ・家庭学習については、生徒アンケートや保護者アンケートでも、課題と感じている部分で、今年度と同様に、家庭学習のやり方などを工夫しながら、教員・生徒・保護者と3者が意識して取り組んでいく。
- ・施設設備の面では、今年度と同様に、市へ要望をしていくとともに、現在の施設を丁寧に扱い、必要な部分では修繕し、教職員一同でよりよい環境づくりをしていく。
- ・携帯電話やスマホの所有率が、90%以上と高いため、スマホ等の使い方やそこから起こる課題の解決に向けて、家庭と連携し、生徒に対してより一層の情報教育を進めていく。